学校連携活動による若い世代の農業理解の促進

■　西讃管内の農業関係高等学校等生徒、関係機関　■

（西讃農業改良普及センター　○上原啓介、太田尊士、伊藤博紀）

●対象の概要

西讃管内には、県立高等学校では農業関係の笠田高等学校（「以下「笠田高校」）の外、普通科の高瀬高等学校、観音寺第一高等学校、観音寺総合高等学校が、私立高校では四国学院大学香川西高等学校がある。

中でも、笠田高校（令和２年度生徒数：352名）とは、平成20年度から先進農家現場実習などの連携事業を実施しており、笠田高校の４学科のうち、農業科（農産科学科、植物科学科、食品科学科）との連携が中心となっている。

●課題を取り上げた理由

近年、農業従事者の高齢化と減少が進む中、地域の農業を担う人材の確保・育成が喫緊の課題となっている。

このため、次代の担い手として期待されている笠田高校のほか普通科高校の生徒を対象に新規学卒者の自営や農業法人等への就業を促進するため、これまでの学校連携事業を拡充して取り組んだ。

●普及活動の経過

１　地域農業学習

笠田高校及び農業経営高校の生徒を対象に、現地での農業学習や青年農業者等との意見交換などを行うことにより、地域の農業・農村への理解を深めるとともに、就農意欲の高揚を図った。

学習会では、普及センターから西讃の農業の概要や新規就農者の就農状況等の説明、青年農業者からは就農時の実体験談、そして大規模で営農を行っている農業生産法人への現地視察を行い、農業の現場を知ってもらうとともに、農業への理解を深める活動を実施した。

２　ＪＧＡＰ認証に向けた授業支援

笠田高校の生徒に対してＧＡＰの基礎的な知識の取得とＪＧＡＰ認証取得に向けた意識啓発のための特別講義を実施し、平成30年に「日本ナシ」、「アスパラガス」の２品目で、県内の高校で初となるＪＧＡＰ認証を取得した。さらに、令和元年に維持審査、２年度に更新審査を受審した。

これらの審査対策として、対象となる新３年生20名に対し、普及センターの有資格職員が、専門知識・技術の取得と審査に対応した問題解決能力の向上を図るため、特別講義を年５～７回実施した。

ネギの農業法人にて地域農業学習を実施

笠田高校におけるＪＧＡＰ模擬審査

３　地域と連携した農家実習

笠田高校農業科の２年生を対象に、観音寺市・三豊市内の農業士の農場で農作業の現場実習を実施した。

この取組みは、農業を学ぶ高校生が地域農業への理解を深め、農家の現状や栽培技術等を肌で感じてもらうとともに、受入農家には地域農業の振興のために、産地の後継者育成について

認識を持ってもらうことを目的に開催した。

当日は、生徒と引率教諭が管内の農業士等（野菜、果樹、花き、畜産部門）の先進農家13戸に分かれ、１日農作業を体験した。

それぞれの農家では、生徒２～10名を受入れ、ネギ・レタス等の定植・収穫・調整やミカンの収穫・防鳥ネット張り、鉢花の摘葉作業、牛舎の給餌・掃除等の作業等の実習が行われた。

4　職業としての農業理解の醸成

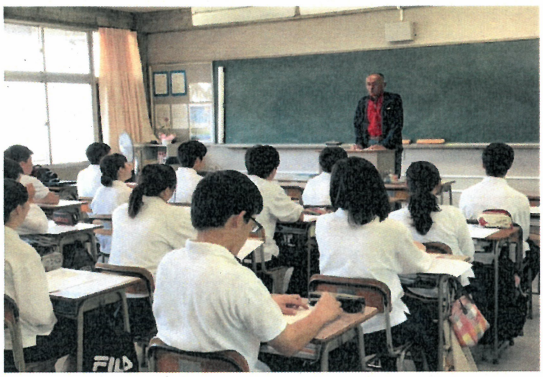
意欲ある若い農業経営者を確保するため、農業との接点の少ない普通科高校へ職業としての農業のＰＲを行った。

1）高瀬高等学校

令和元年６月、１年生を対象とした職業講和の授業に、初めて「農業」が取り入れられた。

事前に担当教諭と意見交換を行い、農業の職業講話について検討を重ねてきた。

講師は、農業士で当校の卒業生でもある農家に依頼し、高校時代の話や農業に対する仕事のやりがい等について、生徒からの事前アンケートに答える形で説明を行った。



自らの農業経験を生徒の前で講話する農業士

2）観音寺総合高校

平成 30 年と令和元年に、１年生を対象にした高校内企業説明会において農業法人１社が農業についての説明を行った。この説明会は、地元企業への理解促進を図り、地域における就職促進に繋がるよう企業担当者から話を聞く場を設け、生徒の職業意識の形成を支援することを目的としている。

普及センターでは、農業をＰＲする良い機会であると捉え、高校と調整を行った結果、講師は同校の卒業生である農業法人代表者に依頼し、当日、農業に対する思い等について説明を行った。

5　西讃の農業を考える会

この研修会は、三豊・観音寺地域の農業振興を目的に、普及センターと三豊農業教育振興会（事務局：笠田高校）の共催で開催した。認定農業者、集落営農リーダー、関係機関職員のほか、笠田高校農業科３年生と教職員が参加した。

研修会では、笠田高校の活動成果を地域の農業者に紹介する研究発表や、農業現場の課題（集落営農、農産物流通）をテーマに講演を行い、高校生とともに課題を共有した。

●普及活動の成果

表－１　各連携事業と参加生徒数（延べ）

事業名	30年	元年	2年
地域農業学習	27	51	－
ＧＡＰ授業	100	140	100
農家現場実習	87	0	87
職業講和等	53	63	－
西讃の農業を考える会	120	100	－
計	387	354	187

1　農業の現場に触れる生徒数の増加

各種連携事業を行った結果、農業の現場とかかわった生徒数が平成30年度～令和２年度の間で延べ928名となった（表―１）。

連携事業に参加した高校生は、生産現場の農家と直接かかわることにより、農業意識の醸成が図られた。

2　笠田高校生の農業大学校への進学者数は、平成30年度が５名、31年度が１名、令和２年が４名であった。

3　ＪＧＡＰ認証を取得・更新することで、学生が農業における関連法規や作業手順、ＰＤＣＡサイクル等、社会に出た時に役に立つスキルを勉強できる体制ができた。

●今後の普及活動の課題

普通科高校に限らず、農業高校においても高校卒業後すぐに就農するケースはほとんどないが、地域の産業である農業への理解が進み、将来に農業が選択肢の１つになるよう、これからも支援を続けていきたい。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、連携活動は縮小を余儀なくされた。今後も人が集まる事業は実施しにくいと思われるが、農家現場実習等は今後も継続する計画である。